

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105354
法人名	松山医療生活協同生活
事業所名	グループホームなないろ
所在地	松山市立花2丁目2-15
自己評価作成日	H25年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個別支援に力をいれており、利用者の希望する所へ外出したり、ドライブ、買い物、散歩等、支援している。担当スタッフが意欲支援計画書を作成し、温泉、墓参等お連れしている。お誕生日には食べたい料理を提供している。母体病院と連携し適切な医療を受けることが出来る。又、母体病院に無い診療科は主治医と相談し、他医療機関を紹介して頂き医療面は安心して頂いている。管理栄養士の考えたメニューを取り入れバランスのとれた食事を提供している。入浴は多い方で週4回あり、在宅に近い生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●地元からの利用者が多く、以前から利用している商店を続けて利用できるよう支援されている。以前から母体病院に通院されていた方がほとんどで、時々、病院内にある喫茶店にお茶を飲みに出かけ、顔見知りの方と会話を楽しんだりしている。
●パチンコがお好きな方は、職員と一緒にパチンコ店に行かれたり、好きな歌手のコンサートに職員と一緒に出かけたりされている。「映画に行きたい」との希望があり、近々、映画鑑賞に出かける予定もある。「桜の花見」と「せせらぎ亭」への外出は、ご家族もお誘いしての恒例行事となっており、できるだけ全員で外出できるよう支援されている。
●近隣の3軒の方とは、お寿司ができれば届ける等して、おつきあいをされている。向かいにある飲食店のたこ焼きをおやつに買われることもある。散歩時には、顔見知りの方が声をかけてくださる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームなないろ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

日野 久美

評価完了日

H25 年 6 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 利用者直筆の理念をリビングのよく見える所に掲示してある。理念にある「安心して」は母体の病院から月2回の往診がある。「生きがいを感じる」は意欲支援計画書を作成し活用している。「楽しく」は日々、スタッフとのおしゃべりやゲーム、ボランティアの協力を得て楽しんで頂いている。開設当初から理念の変更はない。理念に沿った支援ができていないか定期的に話し合う場を持っている。</p> <p>(外部評価) 開設以来、事業所は、「住み慣れた町で、安心して、楽しく、生きがいを感じる生活を支援して行きます」と理念を掲げておられ、玄関や居間の壁、事務室等に掲示されている。昨年11月に管理者の交代があった際、管理者は職員に、「利用者の意見を大切に利用者が安心して、退屈しないように職員が協力して支援していきたい」ことを話された。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) グループホームの近隣に住んでおられた利用者が多く、在宅時代買い物に行っていたスーパーから毎日お魚を発注し、地域とのつながりを大切にしている。秋祭りと敬老の日には近くの保育園児が手作りの神輿を担いでハッピー姿で訪問してくれている。町内会にも入会しており、御神輿の休憩場所として提供している。「まもる君の家」に登録しており児童より感謝の手紙を頂いている。</p> <p>(外部評価) 近隣の3軒の方とは、お寿司ができれば届ける等して、おつきあいをされている。向かいにある飲食店のたこ焼きをおやつに買われることもある。散歩時には、顔見知りの方が声をかけてくださる。事業所で「敬老会」を行う際には、地域の保育園児の訪問が恒例となっており、歌と一緒に歌う等して利用者と交流されている。管理者は今後、小学校の運動会等、地域で行われる行事に、利用者が出かけていけるよう支援したいと話しておられた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護教室を開催する旨の掲示はしてあるが開催には至っていない。研修・ボランティアの受け入れも行っている。母体の病院が毎年夏祭りを開催し、利用者と家族で楽しんで頂いている。地域の方200名程が参加して交流して下さる。近くの園児たちも来て楽しんでもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>近況報告は2ヶ月間の生活を写真にして説明。利用者、家族には毎回参加頂き、不安に思っている事、要望をお聞きしてその意見を参考に会議をすすめて行くこともある。改善した事があれば議事録やなないろ便りに記載して報告している。</p> <p>(外部評価) 会議には、民生委員や他法人のグループホーム職員等も参加されている。以前は、併設デイサービスで会議を開催しておられたが、管理者が、他グループホームの会議に参加した際の会議のあり方を参考にされ、その後、事業所の居間で会議を開催し、「普段の利用者の生活を見ていただきたい」と、取り組まれている。会議では、利用者の日常や外出時等に撮った写真をお見せしながら、近況報告をされている。</p>	<p>管理者は、会議参加者から、「いろいろな意見を出していただきたい」と考えておられる。今後、地域のいろいろな立場の方に会議参加を積極的に働きかけて、ネットワークを拡げていかれたり、又、事業所の取り組みを知ってもらいながら意見を聞けるよう、会議の取り組みを工夫されてみてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ケアの在り方や問題点等の助言を頂いている。他グループホームの取り組み等も紹介して下さり参考にさせてもらっている。インフルエンザ感染者が出た時は感染予防の指導をして頂いた。</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議に参加していただき、「感染症」や「防災」について等、情報やアドバイスをいただいている。地域包括支援センターの担当者からは、小学生を対象にした認知症の絵本の読み聞かせ時に、「現場スタッフの生の声が大事なので、今後協力をお願いしたい」と言われている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 帰宅願望が強く、外に出ようとされる方には落ち着くまで見守りを行い洗濯物をたたんで頂くなどして気が違うことに向くようにして身体拘束のないケアを徹底している。基本的に日中は施錠はしていない。理念を掲示し、スタッフの意識統一を図っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、「一人の人を大切に 一人一人の意思の尊重人は人の中で元気になる」という「身体拘束等の排除の理念」を掲げておられる。管理者は、職員の気になるような行動や言葉かけの場面があった際には、その都度注意を促すようにされている。調査訪問時、居室の窓は「事業所が2階に位置する」こともあり、少し開いた状態で、それ以上開かないようロックされていた。朝は開錠し、窓を全開にして換気をされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>マニュアルの作成を行う他、ほとんどのスタッフが研修会に参加している。「ちょっと待って」「後で」なども虐待と知らずに言っていることもあり、スタッフ間で注意し合い虐待防止に努めている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>マニュアルの作成を行う他、ほとんどのスタッフが研修会に参加している。一人成年後見制度を利用されている。スタッフ全員が見識を深めて行きたい。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約時には家族の協力を得て丁寧に説明を行うようにしている。暫定的なケアプランも提案し、グループホームの環境に早く慣れてもらえる様に家族からの情報を貰える様にしている。医療との連携についても話しあう時間を持っている。介護報酬改定時には勉強会を持ったり、説明文書を配布したり電話連絡をとる等を行っている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族様の意見・要望等、直接言いにくい事も把握できるように玄関に意見箱を設置している。利用者には個人的に意見・要望を伺いミーティングで話し合い要望を反映出来るように工夫している。家族会は夕涼み会と忘年会に合せて年2回行っている。出された意見等はミーティングで検討し運営につなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪時、職員は、居室で近況報告をされたり、希望等を聞くようにされている。ご家族からの伝言は、「申し送りノート」に記入して、職員間で情報共有されている。玄関には、毎月の行事予定を貼り出しておられ、ご家族ごとに「通信ボックス」を用意して、お便り等を入れておられる。2ヶ月毎に「なないろ便り」を発行しておられ、行事等、利用者の表情がわかる写真を載せておられるが、ご本人の写真が載っていない場合には、ご家族に渡すことを控えている。</p>	<p>今後さらに、利用する側であるご家族と一緒に活動するような機会を増やす等して、ご家族の要望や気持ち等もうかがいながら、信頼関係を深めていくような取り組みをすすめていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者は問題や要望が出た時は話し合いの場を設けてくれる。スタッフの意見や提案はミーティングで話し合うようにしている他、連絡ノートを活用し、情報の共有を図っている。新たにパイプ役として主任を配置した。オープンに話せるように管理者はスタッフとの信頼関係の構築に努めている。利用者のリロケーションダメージを避ける意味でもスタッフの配置交代には配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、「全職員でご家族との信頼関係を築いていきたい」と考えておられ、利用者個々の担当職員が中心となり、ご家族の来訪時等を捉えてコミュニケーションを図る等して、関係作りへの取り組みをすすめておられる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフの負担を考慮しながらも、利用者のニーズに応じて柔軟な勤務体制がとれるようにしている。研修も力を入れ積極的に参加できるようにしている。開設当初からのスタッフが半数おり、介護福祉士が半数、3名が介護支援専門員の資格を取得した。福利厚生は労組の活動に積極的に参加し働きやすい環境に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修会の学びを全員が共有できるようにミーティングで報告する機会を作っている。外部の研修にも積極的に参加できるように回覧している。法人内の研修も月に1回程度行われている。グループホーム独自に褥瘡勉強会を月1回、協力病院の各分野の人に講義してもらい、介護技術のレベルアップにつなげている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域密着型サービス協会に入会して情報をもらっている。近くのグループホームの運営推進会議に参加して情報交換をし、当ホームに欠けている所はうまく取り入れてサービスの向上に努めている。又、近隣のグループホームと利用者同士の交流を図る活動も計画中。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>家族・担当ケアマネと連携して入所までの経過を把握するようにしている。可能であればご家族と一緒に見学して頂き暫くホームで過して利用者と交流を図って頂いている。その間、ご家族から情報を聞いて安心して生活できるように工夫している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始となる前にご家族の要望、不安に感じている事をしっかり受け止め、ケアプランに取り入れる様に工夫している。ご家族の意向を重視してサービス提供出来るように努めている。急変した時の対応や重度化した時の対応として看取りについても話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用待機者が多く、必要と思われる時期に利用できない事が多い。担当ケアマネと相談し見極めを判断している。1階のデイサービスを利用しながら待機されている方は時折、声を掛け状況を把握する工夫をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に配膳、じゃが芋の皮むき、もやしの根切りなど手伝って頂いている。時には「持っといで」と、洗濯物たたみやお盆拭きをすすんで下さる事もある。エピソードとして「小松菜は重層で煮ると軟らかく炊けるよ」と教えて頂いたことがあった。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 希望されるご家族の方には負担にならない範囲を確認し、食事介助をして頂いている。行事で外出の際はご家族の方にも参加して頂き、車椅子を押して頂く支援をして頂いている。お誕生会には一緒に参加して頂ける様お誘いしている。年2回の家族会の後、食事会を開き利用者と一緒にゲームや歌を唄って楽しいひと時を過ごして頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所に住んでおられた利用者が多く、以前行っていたスーパーへ買い物にでかけたり、散歩の途中で、「〇〇さん」とすれ違う人から声を掛けて頂いたこともある。昔行った道後の商店街や鍋焼きうどんを食べに行くなど支援している。在宅時代にお世話になっていたヘルパーさんなども面会にきてくださる。1階のデイに通っている方が訪ねて来られることもある。馴染みの美容室へも行かれるかたもいる。 (外部評価) 地元からの利用者が多く、以前から利用している商店を続けて利用できるよう支援されている。以前から母体病院に通院されていた方がほとんどで、時々、病院内にある喫茶店にお茶を飲みに出かけ、顔見知りの方と会話を楽しまれたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者同士で外出して頂いたり、食卓の席も配慮し、楽しく食事が出来るように心掛けている。誕生会や行事にはなるべく参加して頂き、関わり合う機会を作っている。歩行不安定な利用者には「気をおつけよ」と、心配して声をかけておられる事もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後も年賀状を出したり、忘年会や夕涼み会などもお誘いしている。気軽に尋ねてきて下さり、お花やタオルなどを提供して下さっている。近所のご家族とスーパーでお会いした時など、話しかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の会話の中で本人の希望や意向をさりげなく聞き出し、意欲支援計画を作成し一人一人の思いを大切に支援する事に力をいれている。自分の意思が表現しにくい方もご家族と話し合うようにしている。行きたい場所に外出したり、ご家族の承諾が得られれば自宅に帰ったり等の支援を行っている。 (外部評価) 入浴や外出することがお好きな方が、体力低下等に伴い「お風呂も食事も嫌」と言われるようになった際、職員間で話し合い、「温泉に行って、ご飯を食べて帰ったらどうか」とのアイデアを支援につなげて、利用者の意欲向上につながったような事例がある。	職員が知り得た利用者個々の暮らしの希望や意向等について、今後は、さらに情報整理して、理念に沿った支援が実践できるよう、介護計画につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) おしゃれ好きの方には毎朝お化粧をして頂いたり、馴染みの美容室へパーマをかけに行かれています。自宅で使用していた家具や置物など持ち込んで頂き在宅生活に近い生活をして頂いている。孫やひ孫の写真を飾っている方もおられる。好きな芸能人のポスターを貼ったり、新曲が出たらスタッフがCDを購入して差し上げ、居室で聴かれています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) グループホームの一日のおおまかな流れは決まっているが、それに沿った生活ではなくマイペースで時間が過せるよう、朝食・夕食時間に幅を持たせている。体調が良い日は散歩に出掛けたり、一緒に洗濯物をたたんだり、落ち着かない方には寄り添って見守る等の工夫をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人・ご家族の意向を取り入れたものになるように話合った上で決めて行く。月1回のミーティングでだされた課題を検討し、実践した上で評価し次に繋げるように努力している。介護者側からだけの計画にならないよう利用者に理解して頂いてから実践している。介護担当者が中心に作成を行い細かな部分まで行きとどいた支援計画が作成できるよう努めたい。</p> <p>(外部評価) 日常生活動作等について、たとえば食事、入浴、排泄等に分けて「個別援助計画」を作成されている。「問題点」があれば、その都度職員間で話し合い、3ヶ月毎に計画を見直すようになっている。</p>	<p>利用者一人ひとりが、その人らしく暮らし続けられるよう、今後さらに介護計画の作成に工夫を重ねていかれてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子だけでなく気づきや改善点も記入し、重要なことはマーカーを引いている。ポイントがわかりやすい様にキーワード欄を設けるなど記録用紙の改善を行った。これにより、情報の共有が速やかとなり、介護計画の見直しも安易になった。又、排泄・バイタルもチェック表を作成し日々の変化が一目でわかるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご家族が入院などして協力が得られない時は必要な物を購入している。母体病院にない診療科へは必要時受診介助を行っている。管理栄養士・PT等にアドバイスを受け協力を得ながら対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティアによる催し物や民生委員・町内会長の訪問、管轄の警察の介入などがある。又、母体病院の1階にボランティアによる喫茶があり、行くとケアサポートのケアマネや看護師などが声を掛けてくれる。町内会の敬老会のお誘いなどがあり、お赤飯を頂戴している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 元々、協力病院を受診していた利用者が多く、毎週往診してもらっている。協力病院に診療科がない場合はスタッフが他病院の受診介助を行い円滑な治療が受けられる様に支援している。急な発熱等も協力病院からのサポートがある。毎月、診療情報を提供してもらい健康維持・病状安定に努めている。</p> <p>(外部評価) 現在は、すべての利用者が、入居以前より母体病院をかかりつけ医とされており、毎週往診がある。他の専門科等の受診については、ご家族に付き添っていただいている。今月は、初めて歯科医師会による無料歯科検診が実施される。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 非常勤の看護師ではあるが24時間体制で連絡が付くようにしている。利用者の些細な体調の変化も看護師に報告し連携を図っている。看護師は得た情報や処置方法をスタッフ全員が共有出来る様、連絡ノートに記入している。協力病院の訪問看護ステーションもスムーズな治療、処置が受けられる様支援してくれている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院しても安心して治療が受けられる様、日頃の様子を細かく病院に申し送っている。入院中も面会に行き病棟看護師の協力を得て状況の把握をしている。退院前には主治医の指示を頂きスムーズに復帰できるよう支援している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 3ヶ月に1回、ケアプラン更新時に看取りについてのご意向を確認している。グループホームでの看取りを希望されているご家族には、「看取り介護の具体的支援内容」を用いて詳しく説明した上、「看取りについての同意書」に署名・捺印を頂いている。重度化した場合は主治医・訪問看護と連携を図り、安心して看取りが行えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 3ヶ月毎の介護計画の見直しに合わせて、ご家族には、看取りについての希望を紙面でうかがい、同意書をもらうよう取り組まれている。今年2月に、100歳を超える方の看取りを支援された。口から食べるのが難しくなり、訪問看護で点滴をして、母体病院からは、週2回往診を受けながら看取られた。職員は、口を湿らせたり、口腔ケア等に力を入れて支援された。ご家族も毎日のように来られ、夕方1時間ほどの時間を一緒に過ごされた。ご家族からは「よくしていただいて、ありがとうございました」と感謝の言葉をいただいたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 24時間体制で看護師・協力病院に連絡が取れるようにしている。緊急時の対応マニュアルを作成している。消防署での普通救命講習Ⅰを受講したり、緊急時の対応の研修にも多く参加している。昨年リビングにAEDを設置した。その際にもAED講習を全員が受けた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災・災害時に備えて地域の方々をメンバーに加えた緊急連絡網を整備している。年2回の避難訓練を消防署の協力を得て行っている。火災報知機、火災通報の直通電話も完備出来ている。近隣の方の援助も協力頂けるようにしている。避難経路には邪魔なものは置かない様にしており、懐中電灯も3ヶ所に設置。公衆電話と硬貨の設置も出来ている。カーテンも防災の物を使用している。 (外部評価) 前回の外部評価の後、事業所独自の「防災マップ」を作成され、居間に掲示されている。昨年11月には、「日中、1階にある併設デイサービスに遊びに行っている時の火災」を想定して、避難訓練を実施された。外部者にも利用者の避難方法が分かるよう、玄関に入ったところに利用者の状態を記し、避難方法を色で示した表を掲示しておられ、居室の扉にも色分けしたりリボンを付けられている。事業所建物は、「震度7まで耐える耐震構造」の造りで、水と食料等の備蓄をされている。	4月の運営推進会議時には、市の担当者から、「シーツを使って2階から避難する方法を消防署に教えていただいてはどうか」、又、民生委員からは、「町内会と一緒に避難訓練を実施してはどうか」等の提案があった。現在、介護度重度の利用者が少なくないことや、事業所は建物の2階部分に位置すること等も踏まえて、夜間想定等、いろいろな災害の場面を想定して避難訓練を重ねていかれてほしい。又、いざという時に、地域の方達と協力し合えるような体制作りについても、取り組みをすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 親しさと同僚性は違う事を全員が意識して言葉遣いには気をつけている。接遇マナーの研修にも参加し、尊厳を持って接している。居室に入室する際は声掛けとノックを行うのはもちろん身体ケアを行う場合も同意を得るような言葉掛けを行いプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 母体病院で「接遇について」の研修があり、全職員が受講されている。調査訪問時、利用者の「お誕生会」があり、洋服に着替えて参加しておられた。誕生日には、ご本人のお好きな物を事業所からプレゼントされており、たとえば「洋服がいい」と希望があれば、職員が洋品店に付き添い、ご本人の好みを踏まえて複数の洋服を選び、その中からご本人がお好きなものを選んで、決めたりできるよう支援されている。ベッド上で長時間を過ごす利用者も、状態を見ながらできるだけ行事には居間でみなと一緒に過ごせるよう、支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりの体調に合わせて、ゆったりした対応が行えるように努力している。利用者の気持ち、嗜好等を考慮した対応をスタッフ間でも共有出来るように申し送ったり、介護記録に残す様に工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝・夕の食事時間に幅を持たせ、その人の体調に合せた食事時間を選ぶようにしている。朝寝坊しても大丈夫というように対応している。パンがお好きな方には時々召し上がって頂いている。利用者のペースに少しでも合せられるように食事・入浴等の時間を利用者と一緒に相談しながら決定している。外出、買い物等も希望時にできるように対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定が出来る方は自分の好みに合わせておしゃれ出来るように取りやすい所に衣服を整理したり、衣替えを支援したりしている。好みの洋服を購入できるように、外出支援している。利用者全員朝は衣服に、夜はパジャマに更衣して頂き、生活のリズムを整えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本、管理栄養士による献立をもとに食事を提供している。お誕生日はその方のリクエストをお聞きして好きな物をお出ししている。旬の物をお出しして季節を感じて頂いている。下ごしらえを手伝って下さる利用者と一緒にやさしい根切り、ゴボウの笹がき、餃子作りなどを行っている。食器は使い慣れた物を自宅から持って来て頂いている。食事量の低下、低栄養、糖尿病の方は協力病院の管理栄養士に相談して指導、アドバイスももらっている。 (外部評価) 食事作り専門の職員が昼・夕食を作り、専門職員が休みの日や朝食は、介護職員が作るようになっていく。調査訪問時には、今日がお誕生日の方のリクエストに応じて、利用者と職員と一緒に、いなりずしを作っておられた。昼食時、利用者が「田舎のいなりずしとは違うね」と言われると、職員が「どんなに違いますか」と問われる等、会話しながら食事をされていた。又、利用者同士で「美味しいね」等と声をかけ合ったり、食べ終わったことを確認し合ったりされていた。利用者の希望で回転ずしに出かけたり、宅配ピザを注文されることもある。ご家族には、年2回、「納涼会」「忘年会」時に一緒に食事をされるが、食事はご家族の関心ごとでもあり、普段の食事についても、時々、一緒に食べたり感想を聞くような機会を設けてみてはどうだろうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 高齢による嚥下困難な方には食事の形態を工夫して、根気よく介助して出来るだけ経口摂取して頂く。食事摂取量は毎回つけている。脱水予防の為に補水液を作り置きして頻回に水分補給を行い、湯上りや外出から帰った時等も補水液をお出ししたり、好みのものを確認してからお出ししている。栄養バランスは医師や管理栄養士のアドバイスを受け、必要な方には栄養機能食品等を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方は毎食後に口腔ケアと毎晩義歯洗浄剤で消毒して頂いている。介助が必要な方はスタッフが支援している。嚥下反射機能維持の為にスポンジブラシを用いて口腔ケアを行っている。必要時、訪問歯科診療も受けられるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄パターン、身体的能力を考慮しながら尿意の訴えない方もトイレで排泄できるように誘導している。排泄チェックリストを作成し排泄のあった時間を把握し失禁を予防している。利用者の能力に応じてどの様なオムツや尿パッドを利用するか、時間帯や体調に応じて調節している。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄パターンを把握して、日中はトイレで排泄できるように取り組んでおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアにあたるスタッフ全員が利用者全員の排泄状況を把握するようにしている。出来るだけ自然排便がある様に食物繊維の多い食事を提供したり乳製品を摂取して頂いたりしている。その他、運動や歩行を取り入れたり、温罎法や腹部マッサージを行っているが便秘に傾くかたが多く、緩下剤に頼っている状態である。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者と相談し、週間の入浴スケジュールを決めている。週4回の方もおられる。拒否が多い方には毎日入浴の声掛けを行い受け入れて下さる時に入浴して頂くようにしている。便失禁等で必要な時は随時入浴して頂ける様にしている。入浴好きの方は温泉にお連れする等の支援もしている。	
			(外部評価) 浴室には一般家庭のような浴槽が設置されており、介護度が重度の利用者の方には、職員が2人介助で浴槽で温まれるよう支援されている。歌がお好きな方で、湯船で温まり、お気に入りの歌を「4番まで歌って出る」ことが習慣となっている方もおられる。一番風呂を希望する方が重なる時等は、利用者同士じゃんけんをして順番を決めることもあるようだ。「毎日お風呂に入りたい」という、お風呂好きな方2名とは、職員との話し合いで、現在は週4回の入浴とされている。他利用者は、年齢や体調等をみながら、週2回～3回入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の一人ひとりの睡眠パターンを把握し必要な方には午睡を取って頂いているが、日中は、出来るだけ離床して頂けるようにおやつや体操、散歩や楽しみにしておられる事を演出し生活のリズムが整うようにしている。皆様、眠剤に頼らず、眠られている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 協力病院ではワンパック包装にしてもらい誤薬を防いでいる。スタッフ全員が内服内容が把握出来る様に薬効・内服量・副作用等を記載した薬情ファイルと内服一覧表を作成している。新しい薬が処方された時は必ず情報を共有出来る様に、連絡ノート、介護記録、口頭で申し送っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 季節に合せた行事を行い花見・夕涼み会・忘年会は家族の方も参加して頂いている。気分転換に買い物・ドライブ・散歩などの支援を行っている。DVDをレンタルしたり、時代劇を観て頂いたりしている。近くのグループホームとの交流で盆踊りやクリスマス会を計画している。役割としては、お盆拭きと洗濯物たたみをしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 里帰りを希望されている利用者がおられるが、先方が受け入れて下されず実現出来ていない。パチンコによく行かれていた方をお連れしたり、温泉好きのかたには温泉にお連れしたり、ご主人のお墓参りにおつれしたり夜、イルミネーションを見に行ったり柔軟な対応を心掛けている。	
			(外部評価) 介護度が重度の方が多く、又、利用者の平均年齢が90歳を超えており、外出に誘っても、「しんどいから行かん」と言われる場合もあり、利用者の状態等に合わせた個別の外出支援が中心となっている。パチンコがお好きな方は、職員と一緒にパチンコ店に行かれたり、好きな歌手のコンサートに職員と一緒に出かけたりされている。「映画に行きたい」との希望があり、近々、映画鑑賞に出かける予定もある。「桜の花見」と「せせらぎ亭」への外出は、ご家族もお誘いしての恒例行事となっており、できるだけ全員で外出できるよう支援されている。ベッド上で長時間過ごす方には、天気の良い日は窓を開けて外気に触れられるよう支援されているが、時には、ちょっと外に出て季節を感じられるような工夫はできないだろうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族の同意を得て、自己管理されている方もいる。日頃はグループホームで管理し、買い物時に手渡し、自分で払って頂き、お金を出して買う楽しさを感じて頂き、外出への意欲につなげているなど、個々に合せての対応を行っている。毎月ご家族に用途明細を報告し確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年、スタッフが写真入りの年賀状を作成し差出人は利用者で出すようにしている。遠方におられるご家族にはグループホーム便りを郵送し近況報告をしている。電話をしたいと希望される方は取り次いで差し上げている。家族からかかってきた時は居家で子機にてお話し頂く等の配慮をしている。携帯を所持されている方は電話の取り次ぎをスタッフが行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには常に季節のお花を生けている。玄関には利用者の最近の写真を展示してご家族にも様子がわかり易いように工夫している。トイレ使用后は流し忘れが無い、匂いがこもっていないかチェックしている。昼食時はテレビを消し、音楽を流してゆったりした気持ちで召し上がって頂いている。夏場は日当たりがよすぎるので、よしずを使用して夏の風情を味わって頂いている。</p> <p>(外部評価) 玄関には、利用者一人ひとりの最近の表情をみてもらえるよう、笑顔のスナップ写真を飾っておられ、随時、新しい写真に貼り替えておられる。居間の天井には、天の川に見立てた七夕飾りを飾り、利用者と職員が書いた短冊等を吊るしておられた。調査訪問時、ご家族の来訪があり、利用者と職員が囲むテーブルと一緒に座り、会話しながら過ごされていた。テーブルの中央には、職員が持参されたアガパンサス等の季節の花が花瓶に生けてあった。ベランダからの日差しには、よしずで日よけをされていた。午後からは、職員と一緒にかるた取りをする利用者の様子がみられた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにソファを2つ設え気の合う方同士で座って、雑談されている。食卓の椅子に腰かけ一人でのいる方もおられる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時にご家族、本人と相談して、馴染みのある使い慣れた家具を持って来て頂く様にしている。家族の写真、好きな歌手のポスター、100歳の表彰状、ご家族が描いた絵画などを飾っておられ、それぞれの思いを大切にしている。また、家具の配置などもスタッフが一緒に、その方の身体レベルに合うよう相談しながら支援している。</p> <p>(外部評価) 好きな歌手のポスターを壁一面に貼っている方や、ご家族の写真や好きな動物のポスターを飾っている方もあった。位牌を持ち込まれている方は、以前はご本人がお水のお供えをしておられたが、最近では難しくなってきたため、職員がご本人の代行をされている。行事や日常の中で撮った表情がわかる写真を、利用者一人ひとりアルバムにして居室に置き、ご家族の来訪時に一緒に見られるようにされていた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 身体レベルに合せた家具の配置を支援し、入浴の準備を自分でできる様、タオルや下着、洋服など手の届く場所に置いている。立ち上がり易くする為、座高の高いソファに変えて、残存能力を維持できるようにしている。トイレ、浴室のドアにそこが何処なのか明記してある。ご自分の部屋がわからない方には大きく名前を扉に貼り、わかりやすく工夫している。</p>	